

中根小の自然

第 34 号 2009 年 3 月 2 日

冬の自然観察 ～木肌

第 32 号の続きで冬の観察。今回は 2/18 に校庭でとった写真から、木肌のもように注目してみます。

木の幹は年々太っていきますから、その外側、樹皮の部分はふくらむのに耐え切れなくて破れて、”コルク”とよばれる層をつくったり、それがさらに破れたりしながら独特のもようを作っていきます。樹皮がところどころ割れていたり、はがれ落ちたりしているのはそのためです。中には(あ)のように表面がロウのような膜でおおわれていて緑色をしていたり、(い)のように表面の部分の発達が悪くてつるつるしていたりするものもあります。どれが何の木の木肌か、当ててみましょう。



(あ)



(い)



(う)



(え)



(お)



(か)



(き)



(く)



(け)



(こ)



(さ)

答は次の中から選びましょう。

キンモクセイ、ウメ、クロマツ、アオギリ、サクラ(エドヒガン)、ハナミズキ、サワラ、オニグルミ、イチヨウ、サルスベリ、スダジイ、

[理科支援員 宮内]